食品のリスク評価の 科学的な進化を 目指して

委員 吉田 緑

第1期目の3年間では食品のリスク評価に仕事と して携わりました。印象深かったのは、「加熱時に生 じるアクリルアミド」の評価を通じて食品のリスク評 価の在り方を広く国民の皆様にご紹介できたことで す。一方で日本の食品のリスク評価は国際的水準に 至っていない面もあります。これからの3年間は、国 民の健康が第一であるという基本をさらに大切に し、食品安全委員会の評価を国際的で科学的なリス ク評価となるよう進化させ、広くその結果をご紹介 していきたいと思います。



鳥取大学農学部獣医学科卒業後、北海道大学博士 (獣医学)、国立医薬品食品衛生研究所安全性生物 試験研究センター病理部第二室長を経て、2015 年7月より食品安全委員会委員。

食品安全を消費者の 視点から見つめて

委員 香西 みどり

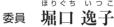
食品をおいしい食物にすることが調理ですが、そ の前提に「安全」があります。これまで調理学の分 野として主に「おいしさの評価」を目指してきました が、今後は併せて「リスク評価」を消費者目線で考 え、消費者に向けての有用な情報提供につながれ ばと思います。調理に限らず生活者の視点に立つ 家政学、生活科学の分野において「安全」は常に最 優先にあり、そのための啓蒙活動、情報発信に貢献 できるよう、分野の異なる他の先生方と協力して一 層努力していきたいと思います。



お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程修了 後、お茶の水女子大学博士(学術)、お茶の水女子大学生 活科学部助教授を経て、お茶の水女子大学基幹研究院 教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

国民の皆様から 信頼される機関を







私の担当は、リスクコミュニケーションに関するこ とです。情報を包み隠さず、誤解・誤認されないよう に努め、また、情報をひもとくために必要な知識を届 けていきます。食品健康影響評価(リスク評価)のプ ロセスと結果が記載されているいわゆる評価書は、 専門用語が多く、自分自身も読み解くことに苦戦し ています。情報を発信するだけでなく、皆様からの 声に耳を傾けます。国民の皆様に、食品安全委員会 そのものが認知され、そして信頼されるよう、努めて いきます。



長崎大学大学院医学研究科博士課程修了後、長崎 大学博士(医学)、順天堂大学医学部助手、長崎大学 広報戦略本部准教授を経て、長崎大学客員教授。 2015年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

さらに広い視野から 食品安全を見つめて



委員 吉田 充

農薬の作用や代謝、農産物や食品の成分に関す る分析を専門とする研究者として30余年を過ごし、 そのあと大学教員として、食品安全学等の授業の 中で、化学分析に関する教育とともにリスクコミュ ニケーションに努めてきました。食品安全委員会で は、汚染物質等専門調査会や農薬専門調査会で活 動をしてまいりました。これからは、食の安全に関し てさらに広い分野に目を向け、科学的視点からのリ スク評価とリスクコミュニケーションに取り組み続 けていきたいと思っております。



東京大学大学院農学系研究科修士課程修了後、東京大学 農学博士、(独)農研機構食品総合研究所食品分析研究領 域長を経て、日本獣医生命科学大学応用生命科学部教 授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。